

ビオスピクシスなどが「ドライパー健康管理システム」を開発

川崎陸送、中野倉庫運輸が9月から実証実験

ビオスピクシス(本社・東京都目黒区、仙波修社長)は、広域運送事業協同組合(樋口恵一理事長)、エル・スリー・ソリューション(本社・東京都港区、樋口社長)らと共同で「ドライパー健康管理システム」を開発した。日々の

血圧や体調、服薬、睡眠状態を携帯電話で入力し、交通事故の未然防止につなげるのが狙い。川崎陸送(本社・東京都港区、樋口社長)と中野倉庫運輸(本社・東京都中央区、徳田武社長)のドライパーを対象に、9月から3カ月間、実証実験を行っている。

同システムは、今年5月からトラック事業者に義務付けられた、点呼時のアルコール検知器数値をはじめ、血圧、体温、体調の不調内容、通院や服薬履歴、前日の飲酒や睡眠状況など、運行管理上重要な生活情報をドライパーの携帯

電話で記録し、運行管理者がドライパーの健康状態をWebプログラム上で一元管理できるもの。

実証実験には、川崎陸送の坂戸流通センター(埼玉県坂戸市)と中野倉庫運輸坂戸支店(同)のドライパーが参加。結果を検証しながら、スマートフォンなどにも入力デバイスを拡張し、来年4月からは、トラック事業者のほかタクシー、バス、鉄道、航空会社にも活用を提案し、サービス範囲を広げていく。

なお、同システムは、標準通信規格を用いて健康管理機器の相互運用を実現する「コンティニュー・ヘルス・アライアンス」が提唱する設計ガイドラインに準拠しており、同規格対応の血圧計をはじめとした測定デバイスで計測したデータを自動的に運行管理者の管理プログラム

に転送することもできる。

今回の実証実験では、血圧測定データの入手力の必要がなく、データ連携が可能なコンティニュー環境を実現。さらに、日々の記録から睡眠障害の傾向がみられるドライパーには、タニタの睡眠計を貸与し、睡眠状態のより詳細なデ

ータを測定するサポートも行う。

4～8日にかけて、幕張メッセ(千葉市美浜区)で開かれた「CEATEC JAPAN 2011」のデジタルヘルスケア・プラザでは、実証実験のリポートや同システムのデモンストラーションも行った。